

問1 表 1・2 から読み取れることを記述しなさい。

※以下のような表の内容が読み取れている。

- 表 1：インシデント発生数について
 - 薬剤に関するインシデントが最も多く全体の約 3 割強を占めている。次いで療養上の世話が 3 割程度を占めており、そのうち 8 割以上は転倒・転落である。
 - ドレーンやチューブに関連したインシデントは多いが、治療・処置や輸血に関するインシデント発生は全体的に少ない。
- 表 2：看護必要とインシデント発生数との関係
 - 薬剤のインシデントは、看護必要度 A 項目との相関が中等度みられ、医療処置との関連が伺える。
 - 療養上の世話に関するインシデントは、必要度 B 項目と中等度の関連がみられ、患者の ADL との関連が伺える。
 - ドレーン・チューブ類は必要度の関連は AB の両項目とも、弱い相関となっている。
 - インシデント分類項目と必要度 C 項目との関連はほとんどみられない。

問2 表をふまえ、医療事故防止における看護必要度の活用可能性について、あなたの考えを述べなさい。

※以下のような内容が含まれている

- (1) 表の内容をふまえている。
 - インシデント分類別発生数の多さや、看護必要度との関連について引用している。
- (2) 看護必要度の活用可能性について自分の考えを論理的に記している。
 - 必要度の点数が医療事故防止の為の予測としてどのように使えるのか、インシデント分類項目との関係から、その可能性について複数の考えを述べている。
 - 必要度の表す業務量が現場の忙しさを正確に反映していない現状を含めて、予測に用いる場合の考慮すべき点に触れている。 など

2026年度研究科入学者選抜試験問題（社会人推薦第3次募集）出題意図
《医学系研究科 看護学専攻 博士前期課程》

〔専門領域問題〕

看護管理学コース

アドミッション・ポリシーに掲げた「専攻する分野の基礎知識を有していること、明確な問題意識を持ち、主体的に学習と研究に取り組める自律した人であること」を確認することを目的として、看護管理領域のリスクマネジメントに関する『看護必要度のリスクマネジメントへの活用』をテーマにした問題を作成した。

問1は、インシデントの項目分類別件数と看護必要度との関連について、調査結果の表から客観的事実を読み取る力を確認するための問題である。

問2は、テーマに対する受験者の看護管理的な視点について、データを活用した論理的な思考力を問う問題である。